

1月14日に太平洋岸を中心に降った雪は、天気予報も直前まで予測できないくらいの積雪をもたらしました。湿った重たい雪は翌日からの冷え込みでがっちり凍り、日陰にはまだたくさんの雪が残っています。初雪がこれほどの積雪になるのは珍しいですね。さて、今回は、雪が降ると見やすくなる、冬の鳥たちを観察しましょう。雪上(?)バードウォッチングです。

積雪は冬鳥にとって緊急事態！

前号(12月発行)で、見かけのわりにうまみの少ない冬の果実を取り上げました。つい先日まで残っていたそうした果実、マンリョウやヤブランが、積雪を境にすっかり食べられています。積雪による食料不足が起きたのでしょう。雪が降ると冬鳥が観察しやすくなるというのは、雪の上では保護色がきかずに丸見え、ということもあります。しかしそれに加え、なりふり構わず食べ物を探さなくてはいけない鳥たちの事情もあります。地上の食べ物を覆い隠してしまう積雪は、地上採餌をする鳥にとってまさに緊急事態なのです。



日本画のような博物館中庭の景色(1/14)

意外と多彩な冬の食べもの

それにしても、厳しい食料事情と言いながらも、鳥の姿はあちらこちらでたくさん見られます。春や夏より、むしろ数は多いのではないかと思うほどです。鳥たちはどのように食べ物を得ているのでしょうか。



果実が食べられたあとのマンリョウの花柄



ヤブランの花柄

身の回りにいる小さな鳥をよく観察して

みると、羽づくろいなどして休息している以外、絶えず食べ物を探しているのがわかります。地面の落ち葉の中や、木の幹のごつごつしたすき間、葉っぱの裏、アスファルト路面の上など。こうした場所には、人間の目にとまらないような小さな食べ物がけっこうあるのです。種子や、人間の食べ物の残骸、休眠している小さな生きものなど...

そして、冬に堂々と咲く花、ヤブツバキもまた、冬の鳥の貴重な食料です。ヤブツバキが咲いていると、たいてい、その木にはメジロがいます。細い嘴を花の中心につっこんで、蜜を吸っているのです。もちろん、顔は花粉で黄色くなっています。そうして次の花へ移る時、花粉も運ばれます。ヒヨドリも同じような行動をとります。庭や公園にふつうに見られるヤブツバキの前で、鳥たちを待ち伏せしてみてもいいかもしれません。



ヤブツバキ



メジロ 細いくちばしは花の蜜を吸うのに適している

次回のお知らせ

ミニ観察会：2月9日(土)11時から

新聞 No.23 も観察会にあわせて発行します。